

第9回委員会の主な検討内容

- 現場の先生方が手引きを見て具体的な姿が見えるようにしていきたい。そのためには、市民科のイメージをもたせるプロローグのようなページがあるとよいのではないか。初めて武蔵野市に来た先生でも分かるような形にしていくとよい。
- 実践事例を基に、子どもたちの学習活用の様子が分かる写真やイラストがあるとよい。生成自身が子どもたちと一緒に夢をつくりあげていくイメージ。
- 1単元以上というのが、2単元やる学校もあれば、1単元で済ませるといった学校もあるという捉えでよいのか。
- 単元の回数は学校ごとに違ってもよいかもしれないが、当初の課題の解決から、新たな課題が出てくるといったスパイラルの学習をしていくことが大切ではないか。
- 外してはいけないのは、目指す資質・能力として自立・協働・社会参画の力が身につけて行くプログラムを創っていくことだろう。
- 小・中学校がそれぞれどのような計画を作成しているのか共有できる場があるとよい。
- 武蔵野市民科の学習を保護者等に伝えていくときに、通知表に何も示されていないと埋没してしまう。一方で、先生方の手間のことも考えていかない。
- 保護者や市民向けに簡単なパンフレットをつくっていくとよい。